

H26 年度

浜中町 ゼニガタアザラシ繁殖調査

NPO法人エトピリカ基金



浜中町 ゼニガタアザラシ繁殖調査

1) 目的

北海道沿岸には 5 種のアザラシ類やトド、キタオットセイにくわえて近年ではラッコと多様な海棲の食肉目哺乳類が生息する。アザラシ類のうち 4 種は氷上繁殖種で、大部分が流氷接岸期に来遊するものであるが、陸上で繁殖するゼニガタアザラシは一年を通じて北海道東部沿岸に生息する。同種は 1970 年代には乱獲や生息地の破壊によって 400 頭程度にまで減少したが、現在では 1000 頭前後まで回復してきており、それに伴って漁業被害や漁網での混獲といった人間との軋轢が深刻化している地域もある。

浜中町内にもゼニガタアザラシが上陸する岩礁（以下、上陸場とする）が存在するが、そのうち数ヶ所は 1980 年代までに過度の狩猟や漁業の稠密化によって崩壊・消滅した。その中で初田半は、1990 年代後半には非繁殖期の上陸場として再利用されるようになってきたことが明らかになっている。浜中湾北部の上陸場では帯広畜産大学ゼニガタアザラシ研究グループをはじめとする年 2 回のセンサス（個体数調査）で、長期の個体数動向が比較的把握されている。ただし、年 2 回の調査であり、繁殖期を通じたモニタリングは行われていない。また、沖合にあるホカケ岩や過去に消滅したケンボッキ島の現状については近年調べられていない。

そこで、過去に消滅した地点を含む浜中湾周辺の数ヶ所の上陸場において、繁殖期から換毛期のゼニガタアザラシ生息数、特に今年生まれた新生仔の数を明らかにし、現状を評価するための調査を実施した。また、ゼニガタアザラシは体表の斑紋が個体ごとに異なり、一生変化しないため個体識別が可能であり、各上陸場での写真撮影による個体データを蓄積することで繁殖状況や寿命、上陸場・地域間の移動等の生活史を明らかにし、将来的な保護・管理に役立てることも合わせて目的とした。

2) 調査方法

本年度は浜中湾周辺の 4 ヶ所のゼニガタアザラシ上陸場（図 1）で、5～8 月に調査を行った。各上陸場の概況や調査手法は下記に個別に記すが、原則として干潮時を中心に陸上または船舶からアザラシを数えると同時に 400mm 望遠レンズを装着したデジタル一眼レフカメラで個体識別用写真を撮影した。また、ゼニガタアザラシ以外の海獣類を確認した時は種や数を記録した。調査地ごとの概況や手法は以下の通りである。

① 浜中湾北部

浜中湾北部に点在する約 20 の岩礁にアザラシが上陸し、陸上からアプローチできる。

5 月 20、21 日、6 月 23、24 日、7 月 25 日、8 月 17 日の計 4 セットの調査を行い、干潮

を挟んだ数時間、上陸場を見下ろす陸上から双眼鏡（10倍）と望遠鏡（25倍）を用いたカウントと写真撮影を行った。

② 初田牛

根室市との境界近くに位置する岩礁で、1970年代には20～30頭の生息する、小規模ながら安定した上陸場だったが、80年代以降崩壊した。近年は秋から早春に少数の上陸が確認されるため、5月20日と6月24日に上陸場から約1km離れた道路から望遠鏡を用いて個体の確認を行った。

③ ホカケ岩

霧多布岬の沖合約3kmにある岩礁帯で、陸上からの観察は距離と角度により難がある。5月20日と6月23日に小型のコンブ漁船を備船して、干潮時に30分ほどかけて岩礁を一巡し、カウントと写真撮影を行った。7月3、25日、8月18日には海鳥沖合調査の往路または復路に岩礁に接近しての調査を行ったが、これらは必ずしも干潮時ではない。

④ ケンボッキ島

琵琶瀬湾の沖に浮かぶ無人島で、1970年代前半には少数の生息が確認されていたが、その後消滅状態が続いている。アゼチの岬からの定点調査の際に複数頭の上陸が観察されたため、5月21日、海鳥デコイ設置作業に便乗して小型船で島に接近し、カウントと写真撮影を行った。アゼチの岬からの望遠鏡による観察は5～8月まで行った。



図1. 浜中湾周辺におけるゼニガタアザラシの上陸場

3) 結果及び考察

(1)ゼニガタアザラシ

各上陸場での確認数を表 1 に示した。

表 1. 2014 年 5～8 月の浜中湾周辺の上陸馬におけるゼニガタアザラシ確認数

| 上陸場／月日 | 5 | | 6 | | 7 | | 8 | |
|----------------------------------|-------|-------|-------|-------|----|----|----|----|
| | 20 | 21 | 23 | 24 | 3 | 25 | 17 | 18 |
| 浜中湾北部 | 7(0) | 18(2) | 19(1) | 22(1) | | 71 | 28 | |
| 初田牛 | 5(0) | | | 0 | | | | |
| ホカケ岩 | 65(7) | | 24(2) | | 39 | 18 | | 0 |
| ケンボッキ島 | | 18(3) | | | | | | |
| * 5、6月の()内は新生仔数 7月以降は識別困難のため区別せず | | | | | | | | |
| * 空欄は調査なし 0は調査したがアザラシの確認なし | | | | | | | | |

① 浜中湾北部

7月25日の71頭が最大で、8月18日は28頭と少なかったが、潮周りが悪かったため、従来同様、繁殖期に少なく、その後の換毛期から秋に数の増える上陸場と考えられる。5月21日には親子2組と妊娠メス1頭を確認したことから、少なくとも3頭がここで繁殖した。繁殖期には非繁殖個体も含め、上陸場西方の小岩礁帯にのみ上陸し、7月以降は上陸場東方の大きめの岩（通称G岩）周辺の岩礁帯に上陸個体が集中した。これは20年以上前からみられる傾向であるが、なぜ季節によってこのような上陸場内の空間的な使い分けが生じるかは明らかになっておらず、アザラシの行動学的な、また海中環境に関する研究が必要であろう。繁殖期に数が減る要因も同様に明らかではないが、同時期にホカケ岩の上陸数が増加し、親子も多いことを考えると、沖合に位置して人間による攪乱が少ないホカケ岩は繁殖場として適しており、それに伴って離乳後の交尾機会を待つオス成獣も移動し、デコイ効果的に幼・若獣も上陸場を切り替えることは十分に考えられる。また、ホカケ岩周辺は外洋に面していて潮の流れが荒いため、大型のアイナメ類やカジカ類が豊富であるとの漁業者からの聞き取りもあり、新生仔を連れて行動圏の制限される育児メスにとって、近隣で機会的に採餌できる可能性が高いのかもしれない。

② 初田牛

5月20日に5頭が観察されたが新生仔はおらず、6月には個体を確認できなかった。当上陸場は1990年代後半以降の現地調査と聞き取りから、8月後半から5月頃まで利用され、3月には最大で30頭以上が上陸することが明らかになったが、繁殖場としては依然機能していない可能性の高いことが今回の調査からわかった。釣り人をはじめ人の進入の多い場所であり、繁殖場の復活には人の立ち入りの規制など、今より一歩進んだ保護対策が必要なのかもしれない。

③ ホカケ岩

5月20日に7組の親子を含む65頭が確認され、浜中湾周辺の繁殖場としては最大であることが示された。6～7月は18～39頭とやや少なく、8月18日にはアザラシは観察されなかった。本上陸場は陸地から遠く人等の接近による攪乱が無いいため、出産・育児期に集中的に利用されると思われる。外海に近く、行動の制限される育児メスにとっては餌へのアクセスも容易かもしれない。7月以降の減少は、調査条件（干潮時ではない等）、コンブ漁開始に伴う分散双方を反映したものであろう。総じて、ホカケ岩本体基部の満潮時でも水没しない場所にはオス成獣が多く、親子や若獣は干潮時のみ露出する部分や周囲の岩礁に上陸する傾向があった。このような傾向は厚岸町大黒島でもみられる。

④ ケンボッキ島

5月21日の船舶調査で親子3組を含む18頭が観察された（写真14）。この島への上陸ならびに親子の確認は1982年以来32年ぶり、3組の確認は1974年以来40年ぶり、1回の調査での確認数は過去最大である。アゼチの岬からの海鳥定点調査では、5月5日～7月9日に2～11頭が継続的に観察された（表2）。本上陸場はケンボッキ島側に傾斜した岩礁も含むため、陸上からのカウント数は実際より少なくなる。ケンボッキ島は5～7月上旬に親子を含むアザラシが集団で上陸する繁殖場として復活を果たしつつあると考えられる。個体数が回復してきたとはいえ、襟裳岬と大黒島に個体数の大半が集中する本種にとって新繁殖場の形成は、伝染病等のリスクを軽減する意味でも重要である。7月以降にいなくなる理由は不明だが、島周辺でのコンブ漁の活発化やアザラシ自身の移動によるものと思われる。ケンボッキ島は陸地から近くて漁業も盛んで、観光利用も行われているため、島周辺の適正な利用とアザラシ上陸場の保全を両立させるための議論や試行に今後取り組む必要があるだろう。なお、過去のケンボッキ島におけるアザラシの確認状況については、表3に既往の知見をまとめた。

表2. 2014年5～7月にアゼチの岬から観察したケンボッキ島のゼニガタアザラシ上陸数

| 月 | 日 | 上陸数 | 備考 |
|---|----|-----|------|
| 5 | 5 | 4 | |
| | 8 | | 遊泳2頭 |
| | 15 | 4 | |
| | 19 | 10 | |
| | 20 | 11 | |
| | 21 | 8 | |
| | 26 | 7 | |
| 6 | 1 | 2 | |
| | 3 | 4 | |
| | 7 | 5 | |
| | 15 | 4 | 遊泳1頭 |
| | 20 | 1 | |
| | 30 | 5 | |
| 7 | 2 | 7 | |
| | 9 | 4 | 最終確認 |

表 3. 過去のケンボッキ島におけるゼニガタアザラシの確認状況

| 年月 | 確認数 | 出典 | 備考 |
|--|--------------|----|-------------------------|
| 1974年5月 | 10+(うち新生仔3+) | 1 | |
| 1975年6月 | 2 | 1 | |
| 1976年6月 | 2 | 1 | |
| 1981年6月 | 1 | 1 | |
| 1982年6月 | 4(うち新生仔2) | 1 | |
| 1983年6月 | 0 | 1 | |
| 1996年 | | 2 | 漁業者への聞き取り 島には現在アザラシはいない |
| 2002年6月 | 1 | 3 | |
| 出典 | | | |
| 1: 伊藤徹魯・宿野部猛. 1986. ゼニガタアザラシの生息数と生息状況. 「ゼニガタアザラシの生態と保護」18-58, 東海大学出版会, 東京. | | | |
| 2: 千嶋 未発表 | | | |
| 3: 千嶋淳・藤野夏子・永井祐紀・白井寛恵. 2010. 2002年6月ケンボッキ島調査報告. ゼニ研通信 | | | |

*

個体識別用写真は浜中湾北部とホカケ岩、ケンボッキ島においてのべ 200 頭以上を撮影した。今後、これらを解析して地域内での移動や出現頻度を明らかにすると同時に、ゼニガタアザラシ個体識別研究者間で構築しているデータベースに登録・比較することによって、地域外との移動や過去の出現・繁殖履歴が明らかにできると期待される。本種のように寿命の長い種類では、生活史を明らかにするための個体識別は長期間継続してこそ意義のあるものであり、今後も育児メス等を中心にデータを蓄積してゆくことが必要である。

本年度の調査は繁殖状況の把握を主目的に、繁殖期から換毛期にかけての時期に実施したが、浜中湾北部や初田半では秋期や春期に上陸数が増加し、同時期には根室地区の上陸場との個体移動が繰り返し確認されている。根室地区の上陸場は歯舞群島をはじめとする南千島とも深い関わりのあることが示唆されており、浜中も同様に、南千島から道東にかけてはゼニガタアザラシが活発に交流し、また供給されていると考えられる。そのため、非繁殖期も含めた上陸数の季節変化や個体識別に関する調査も今後必要である。

浜中町内における本種による漁業被害の発生状況や漁網による混獲数は十分に調査されおらず、漁業とゼニガタアザラシの共存を図る上では、それらの情報も聞き取りや現地調査によって明らかにされる必要がある。また、生物学的な側面だけでなく、被害感情や水産経済との関わりなど社会的側面からの吟味もなされた方が良いだろう。

(2)ゼニガタアザラシ以外の海獣類

浜中湾北部では1～3頭のゴマフアザラシが毎回観察され、いずれも体サイズは小さかった。性成熟前の若獣が分散移動の途上で、一時的にゼニガタアザラシ上陸場に出現したものである。

また、5月に浜中湾北部と小島周辺海域でラッコ各1頭が海上で観察され、時間や個体の特徴から別個体と判断された。本種は従来、北海道東部へは主に若いオスが単独から数頭で来遊するのみであったが、2014年に根室市では親子が確認された。択捉島での個体数回復が歯舞群島への分布域拡大とそこでの個体数増加に繋がり、現在はそれを北海道東部へ広げつつある時期とも考えられ、今後浜中町内でも繁殖や定着が確認される可能性が大いにある。ウニをはじめとした高級水産物への食害が問題となる種だけに、その動向を注意深く見守る必要がある。

写真（その1：ゼニガタアザラシ）

| 浜中湾北部 | |
|---|--|
|  |  |
| 写真1 上陸場遠景(5/20) | 写真2 上陸場遠景(8/17) |
|  |  |
| 写真3 G岩の上陸集団(7/25) | 写真4 G岩の上陸集団(8/17) |
|  |  |
| 写真5 岩礁上の親子(5/21) | 写真6 浅瀬の親子(6/24) |

写真（その2：ゼニガタアザラシ）

| ホカケ岩 | |
|---|--|
|  |  |
| 写真7 ホカケ岩遠景(6/23) | 写真8 ホカケ岩近景(5/20) |
|  |  |
| 写真9 周辺岩礁への上陸個体(5/20) | 写真10 ホカケ岩上の親子(5/20) |
|  |  |
| 写真11 ホカケ岩上部の上陸個体(5/20) | 写真12 遊泳個体(6/20) |

写真（その3：ゼニガタアザラシ・ゴマフアザラシ・ラッコ）

| | |
|--|---|
| ケンボッキ島 | |
|  |  |
| 写真13 島遠景(5/21) | 写真14 上陸場近景(5/21) |
| ゼニガタアザラシ以外の海獣(いずれも浜中湾北部) | |
|  |  |
| 写真15 ゴマフアザラシ(上)とゼニガタアザラシ(5/21) | 写真16 ラッコ(5/21) |